

り不良な環境であることが判る。之が C 圃場に於ける虫数の極めて小なることを説明する有力な一

つと云つてよいであらう。

(農林省農事試験場北陸支場)

## 新しい大豆害虫 1 種及び益虫 1 種

杉山章平・望月正巳

### I. 大豆の根瘤を喰ふ *Revéllia* sp.

(Platystomidae) に就いて

大豆の根瘤を喰ふ害虫は従来ハムシ科 Chrysomelidae のヒメキバネサルハムシ *Pagria signata* MOTSCH. (発見者 V. POROSHIN, V.M. ENGELHARDT, 1935) とフタスジヒメハムシ *Monolepta nigrobilineata* MOTSCH. (発見者湖山利篤, 1939) が知られて居る。昭和22年9月(1947)に農林省農事試験場北陸支場害虫部で *Revéllia* sp. (Platystomidae) が大豆の根瘤を喰ふ事を発見した。

形態：成虫全体青黒色の金属光沢を有し、細長く、脚は全体橙黄色の中形の蠅で翅脈は橙黄色で翅には2箇の黒斑紋を有す。體長10mm内外。卵乳白色ほど紡錘形で細長く表面に細かい不規則な網目状模様がある。卵の最大長0.9mm内外。幼虫、やゝすんぐりした乳白色の蛆で体の後部は丸味を帯び後氣門部は、黒褐色の角状突起となり、その基部に夫々3箇の長楕円形の氣門を有す。體長10mm内外。蛹、赤褐色の依状で幼虫時の頭部及後氣門部の突起を殘存する。體長10mm内外。

生態：年1世代で地下15cm程度の所で老熟幼虫態で越冬し、翌春5、6月頃になり地下5cm程度の所まで移動し化蛹す。羽化した成虫は大豆の莖の地際の皮部の亀裂部内に1乃至数箇の卵を産下する。孵化した幼虫は莖をつたひ、地下に潜り生の根瘤を喰害して、9、10月頃になり根瘤を去り、株附近の地中に分散し越冬する。新潟縣内に広く分布すると考えられるが特に濕潤な重粘質土が壤土に多い傾向見られる。新潟縣の如き畑大豆として早生種が一般に栽培されて居る處ではこの害虫の最も加害の多い時期は成熟期頃になるので今の

ところ被害は輕微で寄生株は幾分早期に黄變する程度である。発生量は所により甚しく、且つ幼虫の喰害力が極めて大きいので、今後とも研究の必要がある。

### II. 蚜虫を捕食するセスジシロアブラバエ

*Leucopis puncticornis* MIEGEN (Chamaemyidae) に就いて

蚜虫を捕食する雙翅目にはシヨクガバエ科 Syrphidae、アブラバエ科 Chamaemyidae の幼虫及びキモグリバエ科 Chloropidae に入る *Chloropisea glabra* MEIG. が知られて居る。アブラバエ科 Chamaemyidae の内ではシロアブラバエ属 *Leucopis* 属の内のものが蚜虫を捕食する。この属のものが蚜虫を食ふと謂ふ記録は COTTAM, R. 氏 (1922) の発表が最も古い様である。

我が國では二宮榮一氏 (1933) により種類は不明であるがハナバヘ科 Anthomiidae の1種として発表されたのが最初である。その後北陸支場で昭和22年(1948)に本邦未記録なるこの属の1種歐洋産 *L. puncticornis* MIEGEN が蚜虫を食ふ事を発見した。

形態：成虫、胸背の可成り彎曲した青白い小形の蠅で體長2.3mm内外。卵、乳白色のほど楕円形で表面に細かいやゝ不規則な縦溝がありその多くは両端に於て收斂する。最大長約0.4mm内外。幼虫、乳白色乃至黄色で紡錘形、頭部に向つて細く、体表に無数の小乳房状の突起があり、後氣門部は著しく突出して柄状となりその先に3箇の氣門の小突起がある。體長3mm内外。蛹、赤褐色で幼虫時の頭部及後氣門部並に體表の乳房状突起を

残し、背面や、扁平なすんぐりしたもので體長2.7mm内外。

生態：蚜虫の発生して居る個所に集り、その附近に1箇づゝ産卵、孵化した幼虫は蚜虫を捕食して成長し、老熟すると黒色の排泄物を出し、植物體上に固着化蛹、5月頃より出現し、9月頃まで発生、その間数世代を経る。蛹で越年するらしい。6月末より7月中旬頃が特に多く、この期間中、大豆の蚜虫類(特にダイツアブラ)の発生を

制壓する有力な益虫である。

上記2種の同定は農林省農事試験場害虫部の加藤静夫氏に依るもので前者は同氏により目下同定中で表記の属のものであろうとの事であり、後者は近く *Insecta Matsumurama* 記念号に発表される事になつて居る。末筆ながらここに同氏に深甚の謝意を表する次第である。

(農林省農事試験場北陸支場)

### 野鼠驅除試験(豫報)概要

關谷英夫・田口 吟・森田美典

#### 1. 試験の目的

昭和21年より當場に於て鼠に関し僅かながら調査、観察をしていたのであるが昭和23年12月23日農局第4610号により野鼠チフス菌の使用禁止が通達された。之により今後の野鼠驅除對策として野鼠チフス菌に代るべき毒劑の選出が必要になつた。從來諸種の毒劑があるが果して何れが良いかと云うことになるとその選擇に迷う。そこで先づ毒劑の効果を比較検討すること並に鼠に毒劑を與える爲の餌の検討を主たる目的とし、尙鼠の種類、一般習性、智能、食性等についても調査研究を行う豫定である。

#### 2. 富山縣産鼠の種類並に棲息地

之は現在までに採集確認したものである。

- 1 はたねすみ *Microtus montebelli* (MILNE-EDWARD)  
縣下全耕地に亘り棲息し穴居している。
- 野鼠 2 ひめねすみ *Apodemus geisha geisha* (THOMAS)  
山間、山麓、畑地等比較的乾燥地帯に多い様である。

- 1 えちぶとねすみ *Rattus rattus alexandrinus* GEOFFROY  
一般建造物に棲息している。最も普通の大型鼠であるが市街地には少ない様である。
- 家鼠 2 どぶねすみ *Rattus norvegicus* ERX-LEBEN  
富山市等市街地に最も普通の大型鼠で郊外地には少い様である。
- 3 はつかねすみ *Mus molossinus* TEMMINCK et SCHLEGEL  
現在のところ棲息地はえちぶとねすみと略同様の様である。

#### 3. 食性

##### 1. 鼠の食物と攝食量

- (イ) 面積1.8坪高さ3尺の金網室中に於て17頭のえちぶとねすみの24時間中に於ける體重1疋當りの攝食量は全供試食物に於ては第1表の通りであつた。
- (ロ) 之の外水も相當攝取する。
- (ハ) 諸或は其の根菜類に於て丸のまま切斷したものとでは何れの鼠の種類も切斷した切斷面から食ふのが普通である。その一例を示せば第2表の通り(體重1疋當り24時間の平均攝取量。他に粃、玄米等の食物もあつた)。